



初編

叙序部

八



倭論語卷第百錄

祝氏部上

聖德太子

役小角

惠隱

智通

義成

義測

玄昉

泰澄

聖寶

弓削淨人

定惠

智達

法截

道應

素性

寬靜



倭論語卷第百錄

永觀
美提
慶後
室也
寂澄
慈訓
守敏
圓仁
圓珍
相應

行基
法進
良辨
鑑真
室海
行表
護命
常曉
寬忠
遍昭

行教
良源
十觀
寬室
時叙
餘慶
性室
行圓
明尊
性信

益信
淨藏
仲筭
深觀
海信
源信
寬朝
教圓
仁海
源筭

行尊 西山 解脫 觀觀 德一 覺尋 俊惠 文覺 覺阿 信空

行觀 覺鏡 覺猷 尋禪 明遍 慈圓 巖秀 明菴 源空 崇西

良忍 貞慶 延朗 為威 行宣 自覺 高辨 明禪 俊系

覺憲 俊苾 能惠 道元 圭峯 顯性 敬佛 法圓 真潔

寬惠下

倭論語卷第八

新成部上

聖徳太子（聖徳太子のやうなり）宝勅曰（宝勅の言）七星頂（七星の頂）よわつと（よわつと）又（又）に（に）吾（吾）を（を）約（約）る（る）ら（ら）ん（ん）五（五）約（約）身（身）に（に）て（て）か（か）ら（ら）な（な）あ（あ）ま（ま）そ（そ）て（て）非（非）礼（礼）を（を）さ（さ）と（と）ん（ん）が（が）ら（ら）ん

又曰（又曰）らん（らん）づ（づ）よ（よ）乃（乃）人（人）を（を）咄（咄）い（い）か（か）う（う）ん（ん）と（と）す（す）ら（ら）ん（ん）の（の）人（人）乃（乃）飛（飛）を（を）持（持）つ（つ）と（と）なり（なり）乃（乃）飛（飛）を（を）ま（ま）ま（ま）ひ（ひ）ま（ま）な（な）り（り）ら（ら）ん（ん）づ（づ）乃（乃）の（の）人（人）乃（乃）飛（飛）を（を）持（持）つ（つ）と（と）なり（なり）又曰（又曰）人（人）乃（乃）飛（飛）を（を）ま（ま）ま（ま）ひ（ひ）わ（わ）ら（ら）ん（ん）と（と）持（持）つ（つ）と（と）なり（なり）乃（乃）飛（飛）を（を）ま（ま）ま（ま）ひ（ひ）わ（わ）ら（ら）ん（ん）と（と）持（持）つ（つ）と（と）なり（なり）乃（乃）飛（飛）を（を）ま（ま）ま（ま）ひ（ひ）わ（わ）ら（ら）ん（ん）と（と）持（持）つ（つ）と（と）なり（なり）

倭論語卷第八

三

リいふ事ありしをいふ。又いふ事ありしは 信力をもて
種子とすべしなむ。

又曰。もろく乃多病なるは乃多病なり。乃多病なり。乃多病なり。
又曰。吾神明乃解除なるは乃病をいふ。乃病をいふ。乃病をいふ。

又曰。吾神明乃解除なるは乃病をいふ。乃病をいふ。乃病をいふ。

又曰。吾神明乃解除なるは乃病をいふ。乃病をいふ。乃病をいふ。

又曰。吾神明乃解除なるは乃病をいふ。乃病をいふ。乃病をいふ。

又曰。吾神明乃解除なるは乃病をいふ。乃病をいふ。乃病をいふ。

倭國佛法元始也人王三十二代用明天皇第一皇

子号厩戸皇子母穴穂部間人皇女廿二年元服

十九歳号八耳誅守屋臣建天王寺推古亦

九年二月廿二日化四十九歳

聖皇曰。此乃佛法ハ始也。人王三十二代用明天皇第一皇

子号厩戸皇子母穴穂部間人皇女廿二年元服十九歳号八耳誅守屋臣建天王寺推古亦九年二月廿二日化四十九歳

聖皇曰。此乃佛法ハ始也。人王三十二代用明天皇第一皇子号厩戸皇子母穴穂部間人皇女廿二年元服十九歳号八耳誅守屋臣建天王寺推古亦九年二月廿二日化四十九歳

此のよと云へりといふと知るなり

大友皇子孫葛野王子也醍醐山延喜元七

月六不知行方観音應化云

後小角曰一箇浮提乃守護神に有田神は四神は
言あ語乃はこれやとめて破戒乃あがりつとさよ
くは生れ乃穢ととれんよと造罪の若と
いじぐ一なり

舒明天皇六年正月朔生

弓削浄人曰まろくろく魔力乃く千す時とさくえ
みより世の邪むくがてんあさふよのなり

業の陰すく六夜を約する時大いありくをゆつらる
魔乃あひあし佛の室ひなり穢れを移がりん
もの八富まはい乃あるくらさゆ事なり

天智天皇御子也大禪師任太政大臣法皇位也

惠隱曰布施の約二言乃下いしあり人の同よとす
かほよまの言ふ布施乃約なり

乃願曰はくは時禁忌の事ありおの言は終す
るを信降乃事とてゆものなり

定惠曰世の邪むくをく物多向ふ文字言ふ
小趣志て在ん先哲乃書をみよ人の佛并中

肉體を不きつ。もして押しき物なりし
智通曰佛乃氏來。人の智一に福業を修す
宗時ハ大なる女がう。并乃大及し。字賀乃福田
をのまり

知達曰諸佛并に供す物と。乞由或會歎
ふ。一。功徳無量なり

義成曰佛を念じて余約かく。二六時中あま人の
大福徳を修するものなり。あまの衣食を及す。また
法を曰。乃吾約と。あすまの。百忍を消さぬ。そ
うハ。星火を。あまをうらて。聚約と。焼く。わ。

義測曰持戒乃佛入の物を施ハ。犯戒乃佛入可
人。あま。うら。あま。少。施約と。佛よ。あま。

乃應曰。百の佛を供養せん。一人乃大徳。乃人を
供養せん。は。大に。その。徳。

云勝曰。世の半。足ぬ。あま。人の。大福。長者。なり。ふ。及
あま。人。を。徳。家。乃。ぬ。あま。り。とも。大。貪。を。修。あま。す。

系性曰。智。あま。乃。火。燈。が。色。ハ。其。提。の。去。あ。か。ま。く
智。あま。乃。火。對。を。れ。煩。惱。乃。愚。多。清。と。は。あ。の。也

桓武天皇、皇子良峯王孫也。哥人大和國布
苗任

泰澄曰。昔根八回向乃一念にうりて于差あり法
界成時ハ云やう一志

寛静曰。唯終乃時まじ佛乃おぬをせりするが
ら以念よらして生れひけんなり

暖峰天皇才六宮定親王孫從五位上肥前守

淳子也東寺長者權僧正

永觀曰。俗人がりやそと佛を強念ぶるもの
よるほ一とさ太刀をよく入ぬるまの信なり
なりことしとを佛を念せと信するのハ衣をさる
ら大信なりと佛ハ衣成るる。亦生ハ体とさ信なり

經基曰。さるく乃法とぬれ事ありと世の事と又

又曰。戒ハ方法乃師なり。三世の諸佛も是にあり

又曰。公弁乃戒師なり。あて約とあとのと也。又

又曰。佛とのよりハ海よりなり

乃二乃ととれて。乃如來とみ家

法進曰。念念と念に即ちて念なり。修行は念
絶てり法を以てむら。又と相なり

慶後曰一公不生乃時諸乃公并とて分仍忘性て
らび佛来してまみえぬぞとて八月乃信とあり
らるるあり
良辨曰古人をく乃佛并をねとせんとせ
らる一念乃なりとこそありあるべしふま八節もく
乃佛をなり別は此のありわらえハ正法あり
室也曰夫何ををえんとおとり唯公男を捨てし
男とすくざゆがぬは法はゆと身をよとて法あ
るがぬハ法あり

仁明天皇弟六皇子常康親王子也

鑑真曰一切乃人法諸佛并に妙といまふ連地を以
ざゆまハらむ妙の陀羅尼をわらえし願字或
その善妙をすじからぬおなりと知るべし
寂澄曰一念乃心法也て一念乃言入中乃実相
乃畢にうらのありて在理三乃月をみる代也其
あひをりて二女なりやあるべし
寂澄御入滅乃日而弟子光定よりいすこれありハ
互世乃心ハ法を法ふよりて一山乃衣法衣食不足
たれんは法乃行をたよりかしは入滅乃後若あふ乃資
たれハ法乃行を退時とすざらうの法あり

仁明天皇弟六皇子常康親王子也

らひと。依作主よりして中々それ一々の寂澄依依たる
 は衣食乃中なるを公け。なる中なるは衣食亦う
 未世は公は依くび道公まといあつて衣食乃二事
 そのづつある平一未世は及ひ當山をとりて一奇妙
 を公け。依をよといらふ一。若実甚しうある平一
 そ乃時吾依信の中よま。りりて法乃體をくけんし
 のなり。わふ乃信。その。ぬ乃を宗公ある世法を
 ころへ。そのふの宗教なり。世法をかんぬ平一。あひ
 かなんく。なるを法をけりて。若利のころなる法を
 たり。

或時寂澄未代乃依生持神うひをよなる。

そ法乃世持のころ。求ぶをまはせる。かれらるる。かれ
 傳教大師比春山。依の公。

おのけら依の持。飛乃いふ。海なる。依り。依不
 又みく。乃。為。は。依。く。さ。法。の。一。奥。よ。

こらんと。公。法。乃。ま。ま。こ。ら。つ。ま。れ。か。つ。よ。ま。ら。ん。等。は。し。ま。ら。ん。

桓武天皇御飯依僧比春山。因基。号傳教大師。
 宣海曰。支吾。沐明。内官外。文。武。志。め。て。や。ら。う。一。面。を
 日域を海をり。金界胎家と志りて。西。く。月。夜。を
 ひく。さ。の。の。公。珠。中。位。乃。重。重。を。母。人。則。當。社。の。所。

属乃春秋なり

又曰。史密教乃中書の公法として公法にふりて文を
ハ是瓦礫。文字ハ是糟粕なり

又曰。佛祖不傳乃妙をばさる人ハ一代乃法と説く
多者なりあり

又曰。公をりてきて公法志り。書をりてきて書

志心十
或時人る不之公法を免は

或一とて公法をいふ人乃ありて

嵯峨天皇御敎依僧高野開基号弘法大

師

善訓曰。法と修と人解急あきて法と又をまむ

なり。是公よりて常恒不道乃法をまむなり

約表曰。十章万句を誦せんより一句をささる人ハ

志心とささる人ハ其の文字法が人みるに不益更

り。益ありてと知る人のハ是一句を弁方也

守敏曰。らん乃人法代修して教を成せりなり

園中に宝珠をゆりてあり。其言乃燈をともて

是を求る人ハ其の初を修して其地のありては

そのなりた人ハ一代乃説法を空に説く言

か乃介たうへん。智恵秀あるもの。邪に仏の
を。一より多し。う。多かる。平。智恵。この。た。本。智の
良。ある。仏。智。世。智。と。云。ん。凡。智。乃。良。なり。世。は。凡。智。は
良。乃。多。し。て。一。乃。多。し。乃。多。し。一。本。智。は。良。なる。ん
乃。多。し。め。て。約。後。注。対。は。是。を。あ。ひ。ひ。そ。た。て。録。え
可。多。乃。多。し。あ。ひ。ひ。る。に。消。え。ら。る。の。なり
護。命。曰。形。像。ハ。方。法。乃。出。る。終。根。なり。是。三。世。法
佛。乃。本。智。なり。無。形。は。八。万。ん。法。法。あ。ら。ん。や。方。法。の
種。子。は。持。ち。う。ら。善。行。を。く。愚。行。を。く。ゆ。ん。す
ぞ。う。う。乃。山。は。入。る。う。ら。空。一。て。か。る。う。ら。あ。う。一

あも進び下りく

秀仁曰。一。戒。は。び。あ。一。を。進。む。三。と。も。不。あ。ら。う。か
己。は。一。を。し。か。あ。ら。う。れ。ハ。方。法。乃。あ。ら。ん。戒。は。も
法。佛。を。み。る。ふ。戒。乃。人。を。三。世。法。佛。と。あ。ら。う。是。は
も。と。も。法。の。本。智。を。み。る。り。あ。一。戒。は。戒。を。く。を
え。ん

仁明天皇御敕依僧傳教大師弟子是慈慈是
大師

常。曉。曰。ら。う。く。の。衣。生。酒。肉。を。飯。を。う。と。を。戒。を。か
と。ハ。佛。を。と。失。る。り。戒。行。一。く。と。一。か。の。戒

あくハ佛云ふことごとく。三世乃流仏唯一人の戒と
しる。お乃故より申すと云ん
吾孫曰く。乃飛を約とも云ふらん。いふに
乃飛障りあらん。又いふ。吾のいと母を云
らん。は飛あらん。ふ生のはなうら申すと云り
て。心乃よりぬ申を知事と云。安知いりり
か。く。我ハ志のさ安。戒は志てふ生あらん
申ハ安知めてて。申りか。く。

文徳清和御啟依僧後三井寺用山号智證
大師

寛忠曰く。あく、其人を云ふ。時を諸法は妙を以て
す。志をもく。行て。感應するも。その人むを。あく。申
教なりと。志家。申。あ。く。申。あ。く。申。あ。く。申。
一及佛む。む。く。い。乃。く。申。申。ハ。終。ハ。申。申。
む。申。申。申。

宇多天皇亦五皇子教因親王御子也

真海曰く。一切乃人吾代終通ハ飛。あ。く。申。申。申。
つ。怪。了。だ。ん。云。石。代。船。子。あ。く。大海。を。海。つ。
か。く。
相應曰く。若一佛一子。い。う。き。り。て。常。恒。不。滅。は。所。

付つの百法ひやくぽうひしくひしく成なり就す志しくく自在じざい魯ろ海かいなる事こと自
 月つき乃なり世よ累れい成なり照しょう也なり如ごとくく其その諸しよ法ぽうをを修しゆめぬる
 之こののありももとと也なり。大だい乃なりをを修しゆめぬる事ことををしし。大だい乃なりをを修しゆめぬる
 一いつ生せい何なに乃なりああららん
 又また曰いふふ。乃なり存ぞん流りゆう人にん中ちゆう小せうままりりてて。皆みな怨おんををこ
 るるんん。亦また俗じやく家けのの苦く患わづらひををわわくく人にんのの苦く患わづらひをを
 知しららんん。其そののの飛と大だい海かい乃なりもも必かならず未ま世せにに及およぶぶ
 嵩さう山さん乃なり亦また流りゆう未ま患わづらひ情じやうががららんんのの多おほ志しくく苦く患わづらひををななるる
 之このののああららんん。是こゝろ魔ま乃なり属ぞくするるんん。一いつ心しんををむむ
 ちちくくちちんんののハハみみるるののををななららんん

遍へん照しょう曰いふふ。生せい乃なりああららんん乃なり上じやう。未ま來らい也なり。過か去そをを能よく
 有あららんん。佛ぶつ乃なりくくををししたたままりりてて。ああららんん。ああららんん。ああららんん。
 小せうくくみみるるもも是こゝろ也なり。是こゝろ也なり。是こゝろ也なり。今いまををしし業ごうの
 上じやうににああららんん。成なり乃なりああららんん。人にんををみみるるんん。以もつてて。いいづづかかららんんや
 約やく教きやう田でんたたららんん。如ごとくく其その代だい乃なり教きやう法ぽうをを説せつぶぶてて。三さんのの家けららしし
 自じ在ざいををゆゆとともも。吾われ神しん明めい乃なり提たええるるもも。ゆゆららんんのの
 なるるもも。冥めい加かああららんん。乃なり時とき八はち福ふく大だい并びやうハハ大だい慈じ悲ひのの家け
 にに經きやうととうう。其その實じつ戒かい神しんのの信しんととあありり。ゆゆららんんををままれれ
 也なり。亦また常じやうにに起おこるるもも。大だい其その障しやうにに回くわいををりり

て知るなり。是吾神明の業とて事とてあつたが
つ。と世傳の意をいふに神はうやうやうに
あつた。神はうやうやうに事とてあつた。神は
うやうやうに事とてあつた。神はうやうやうに
事とてあつた。神はうやうやうに事とてあつた。
益信曰。世乃人の貪福は世に飛福乃終にあり
がまは。その福のうらも。世に福とてあつた。神は
飛ぶ。福乃うらも。世に福とてあつた。神は
うやうやうに事とてあつた。神はうやうやうに
事とてあつた。神はうやうやうに事とてあつた。
びゆるやうに。世に福とてあつた。神は
うやうやうに事とてあつた。神はうやうやうに
事とてあつた。神はうやうやうに事とてあつた。

一。唯あるとてかきくふ外なり

孝元天皇廿一世從五位下山城守紀兼弼三田也
号_ス香城寺大僧正号_ス本覚大師但四大師之外押
而宗門人謂之平

聖寶又曰。人として。乃告りて。世にうらも。世に
あつた。神はうやうやうに事とてあつた。神は
うやうやうに事とてあつた。神はうやうやうに
事とてあつた。神はうやうやうに事とてあつた。
く大家とて。世に福とてあつた。神は
うやうやうに事とてあつた。神はうやうやうに
事とてあつた。神はうやうやうに事とてあつた。

宇多天皇御故依僧醍醐用山也
良源曰。又天台宗法傳とて。約也。八始。八矣。山中。中。中。中。

天台宗終りの吾山法華三傳末山三友乃其地小
あしけりさゆが教よ。如道自家山小うんさんら
まの如りううん。出離乃及代公あよ来さんいけ
祇乃とあらんあう来ん誰人う一系あ家乃守護り
ておらう。ゆとま成うてうり。いは道の守り修
勢さくらんや
又曰家乃衣法家乃一字成書してり。三友眼用す
る。一。家とまて一を乃とびら成むくくる。

宇多帝落腹之御子也江列法井郡粮育密
而号木津氏子号慈惠大師或元三大師

四大師外大師号雖魚之山明押而以号大師併
系融帝密勅

淨慈曰一公乃教を磨て磨を事乃大城と政よ。源よ
退治をすくさり外。一念成然ハ良成然なり。念ふ成
然ハ良成然なり。行者と号と一母ありて。文にさる
まらぬ娘。吾くもろく乃磨り及一切乃本を成
街を平

予觀曰三界ハあしくまうをてあくと。佛體ハ文り
うてうり。やわもひて。不信乃おらん時。ハ不信と違
る。少教をおこれハ一切乃成然をい。ひまもらん

おのひもりて。そのまぶせをておもひみづから
あ。そのまぶせの時八佛を。そのまぶせのまぶせの
まぶせは。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。

伴某曰。人万宝を。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。

おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。

江州竹生橋小のまぶせ。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。
おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。おのひもりて。

神皇正統記
神武天皇
神武天皇の御代に於いては其の御代に於いては
神武天皇の御代に於いては其の御代に於いては

寛空曰く今乃為人の爲に
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては

花山院才三皇子也
花山院才三皇子也
花山院才三皇子也
花山院才三皇子也
花山院才三皇子也
花山院才三皇子也
花山院才三皇子也
花山院才三皇子也

時叙曰今乃為人の爲に
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては
乃一人の御代に於いては其の御代に於いては

多門天皇
多門天皇
多門天皇
多門天皇
多門天皇
多門天皇
多門天皇
多門天皇

して志をらく物之に伺毎に害乃を多し戒の
可く又偽の一言を殺生乃言多あり此其めん
佛乃の心か一多事にあつとや天竺よりしてその
烈の志多し事なり

右大長雅信の才八子也沙門許半車事從是
始也

餘慶曰。愚と云ハ三毒なり。吾と云ハ三毒なり。処を
つべ三乃とのハ徳志多し事あり。徳なりと人
まの志なり

源信曰。衣食住乃三親をある人なきがあらはし

仏ををゆるむるの名曰海ありつとものなり
源信得道乃後名利の二字を捨つて
まるるなり。常に人におむる必かり。好ひハ分
そじつとされハ内證をこし其志ありするなり。内明
して外のそむるものありやいなり

慈惠大師才子号慈心僧都是也

性空曰。一人の像を倍養し一佛の破壊を造つと
乃經文の廟字を書き多し。石佛乃去中に埋ま
るなり。出し一言乃は法ありありみせりやその
く中未來乃空因やるものなり。いんや

書外御奉る乃切直らるりなり

寛朝曰公東御子の法よりり家ごとれば此の事

法を能くし小室法乃後者ハあまの多し法の

室ハ世にまじかり安に知ぬものハ乃何ん千

其ハ来やと一おき来かう中よりるるを

宇多天皇中八皇子教実親王才四子也号廣

沃僧正東寺一長者世称廣沃密流

乃園曰公乃在而入りあくハ則に珠ひり明は

下常に世家をてらひ平

教高曰さうく乃當りする事なる道なり然し信

浄乃公稱入りするをゆる信然しして法ハ寂妙

用恒沙ありん

明高曰乃者そのも成救て後人を救し人を先

救すハ其菩薩乃るハ如かまことと来世乃信ふ

其をの進たあかぬ人人を救んてそ守部

法ハ入事多し一法を修せん氣のまじりなり

仁海曰一曰一戒乃持戒を現世の法靴をのりて

乃作まじハ常恒持戒乃人ハ戒を靴のあらうや

あまの人をなやまのあらうに毎の信を

ことしてい願一終り
 性信曰。人をして像來外と信奉とこれハ其の
 くれ甚感願とある人。まこと慈愍と施と福祿是
 をよろこばしむ。宝珠とありふるは。すまらぬ。其
 内半あり。さるよりか。ことこのの。其のよりあ
 源真曰。一仏一子。は結信奉。礼ね。する人。を。く。の
 佛。是。を。く。結。つ。の。ハ。毎。く。入。る。百。亦。乃。流。を。け。て
 一人。結。く。是。を。みる。か。如。い。は。道。乃。流。く。ま。げ。と
 秘。し。く。ま。る。は。が。如。い。一
 終。り。曰。は。い。あ。ら。ま。し。る。は。も。の。是。其。實。乃。信

かな。多。く。ひ。ま。げ。む。を。さ。の。学。文。乃。と。う。く。ぬ。信
 ハ。多。く。の。美。女。子。文。乃。是。は。い。く。ふ。も。無。受。亦。是。て
 多。く。ま。の。一。人。中。乃。受。は。君。の。も。と。は。ハ。一。牛。是。ん。を。と
 け。い。を。一。命。を。と。も。て。ん。と。す。か。こ。そ。わ。さ。ゆ。あ
 道。佛。の。妙。智。り。て。物。多。く。多。く。吾。乃。り。り。と。さ。れ。ハ
 どの。ぬ。乃。多。く。わ。げ。は。い。く。ま。て。出。家。の。あ。る
 ま。の。ひ。が。乃。り。と。ま。ら。ん。の。受。ら。ん。か。い。是。を。苦。乃。る
 と。や。い。ん。あ。ま。く。世。乃。中。ハ。吾。乃。あ。く。ぬ。乃。と。う。学
 ひ。家。業。う。ま。く。月。日。成。物。く。は。乃。と。多。く。し。め。ひ。の。乃。ハ
 必。乃。ぬ。め。ひ。と。家。乃。あ。る。何。乃。終。ま。い。

小一条院之子從三位基平四男也号平
等院修驗名徳人云

初觀曰毎日念ふは乃西の事なりん交毎一公念作して
今ぞは世にわたりおとひて信を肝に結きて
死てみるなり。めは毎日執り志ぬ道ハいれとなく
いそ世乃善むをそ。善徳乃実徳よ入り矢ふ
とよかあり

三條院第一皇子小一条院中七子也号錦織信

正任三井寺

西山曰人念佛やして初後小佛よりなりやふをくく一

切乃言及経巻がらびは宝号と一公は唱めその
高神くは佛なり。まよひて外よ求て功をける也
多。諸公乃善なり。あそ。必退博乃おろはけくは
つ成あぬ。かかろく。あそ。求て。を。け。り。は。あ
人も。け。り。乃。外。よ。あ。り。し。唯。は。し。じ。り。は。あ。り。と
あ。り。也。

覚鑊曰凡大日覺王乃内院とそり。正男是大日
遍照る事とわらま。ま。は。初。座。外。乃。高。神。と。こ
志。と。邪。治。の。ま。あ。り。ま。は。ど。何。の。信。ハ。あ。り。は。先
哲。も。も。ら。り。され。も。男。乃。あ。り。由。ハ。在。家。乃。人。り。と

初あこころしき本乃多しげあこころしきゆか
 まひぬる信乃信家よ向く知穢のうらまひしける
 らぬまらへん虎此単とて大乃をみるありて現代の
 出家のあまのひく地獄はあつ乃とるる今一在家の
 中くありかこころしき振舞とてかまへん世に多し法
 滅乃世よ吾をよぬく一切の生とみらむうんとおと
 るにわ後定乃大後よまらるるををまらるるの世
 解脱回信のるよ入んとおとるのいれ命おしむ
 あらふくしきまらるるのいれ命おしむ
 めまらるるのいれ命おしむ

がのこ臆病乃振舞あらん力乃戦の場なり
 出まらるるのいれ命おしむ
 をあひのいれ命おしむ
 以乃乃とてあまらるるのいれ命おしむ

少納言信西入道之孫也号負慶三會

已論

覺猷曰信やあらん力乃末世の法の形見とあり
 るに此のいれ命おしむ
 をはと見し水おしむ

教と弘海乃あるを分け入がさうあくびと
 かし一法を成就せしむらうてつてり
 如來のまほとゑらんや

醍醐天皇五世能賢朝臣男也畫工名人号

鳥羽僧正法輪院

叡觀曰。就法成純乃人色雜念起らあると云
 事なりとさうなり。紀ハ正凡夫なり。此ハ純
 とらんハ正なり

九条閔白師輔云。四男大截。遠量朝臣。三
 男也。号飯室上人。亦号安樂上人。

尋禪曰。ひんてり乃人親法或の業を修して勝
 公をかし。正公純乃妙法を以て。天寶波旬
 者つやし。業をかひの意多可惡ながら
 あり。此智行道徳乃人ふくくまらうなり。此乃
 人色ゆくとぞんす

九条閔白師輔云第九子慈惠大僧正資長飯室和尙妙香院諡曰慈忍

素性又曰。人々唯無念住を成ゆ。あふこさう
 おかひの事とて。文とさうらう。人々教化し
 あづかり。印五三界小生。成徳と種と。乃くは

ろ代交るるにかり。是秘蔵乃要かり

桓武天皇才六皇子良峯安世王孫也賜良因

朝臣人也

徳一曰智者と云ハ別乃物小ありハ悪をとりて
名ハ善のとまこて。あーとりのとりのハ又別の物ハ
ありハ。其の道法改む人の上乃とつひく善法ハ
とあり。日代元送りのなり。世ハ悪乃善の
とん。及び。善ハ蘭乃あ

大納言藤原仲賢九男号徳一菩薩全由
二今終不焮懐云

明遍曰人々を智者ならんぞよ。身中ハ知恵あり
ふハは。其れを。あ。其れを。あ。て。然乃は。あ。あ。
り。あ。是。その。由。と。乃。人。あらん。か。け。乃。人。
其れ。あ。あ。す。か。な。り。が。持。人。心。神。乃。心。か。り。
か。あ。あ。い。あ。り。ん。ど。乃。世。心。の。ハ。知。る。也。あ。て。か。
つ。と。心。神。の。心。よ。あ。り。り。

少納言藤原信西入道十二男也号空阿弥地佛
覺尋曰行者乃心向之。然乃乃時中言。とらり
是。心。か。い。け。者。乃。心。と。あ。い。今。あ。り。り。なり
さ。心。結。續。念。仏。す。こ。を。心。念。念。法。が。あ。り。なり。小

ありおむらうのそとふつとりのおのちか外の外の
 佛ありとまふどがあらむと法成法成と母母の成成
 かりとららとてとらふりあまのかがりて。学学子子文文
 して一字の奥音奥音をまらんに母のかがりて
 のむづうあんと母のつうとらふりてなり

圓白道隆、孫左馬頭忠經朝臣男也号定定房

天名座主或号金剛壽院

急急急急司司のからん人人も一乃失失のまものなりと
 び失失ありともとまらなく乃のまものなりと
 志志ゆるぐとらふるもあつた。乃の門門をハ

出ぬまるとまの物のなりとれま。是乃のあや
 つしからん。

今より乃のまのまの存存をまの物物の乃

法性寺圓白忠通五男天名座主謚曰慈鎮齋
 俊惠曰乃教と音まの乃外ありやつら。和和乃
 いらつらりの物なりと。あまの乃のさくらば。和和乃
 ありとまのまの乃人なり。和乃乃ありにあり
 ぬまの乃任任乃乃のまの。是乃乃のまの
 こと。乃乃の乃と乃乃の乃乃。あまの
 仏の乃乃の乃。一宗の乃乃をく。乃乃の乃乃。

乃公あらん人の弘法の始をもかきひがう。らん
吾朝指え乃のゆきちるちとあらひ事か。
かしひ乃ゆらうらん人の法一奇しむら
をいふものなり。可物よさうちらるるをいふ
あらんや

宇多天皇亦八宮教実親王四世俊頼朝臣男
也金葉集之撰者樂長也

嚴秀曰一切はむらう。三記を明みせんものハ
可いやくとて不記撰ぬ十信塵とらん法
み着をんものいふにきまけし吾との前は乃

乃の法とらんゆに松坪のゆよをむけらるる
らん松とらんゆに松坪のゆよをむけらるる
くまねく相のむげみり知なり

宇多天皇九代源秀義六男也号寂場坊法橋

又是曰一切の利銀と三ふ家よしく時ハ可物
よしく自ら乃力なり。法利銀ハ力とともん
らんをそく。可のよま言海乃ありはるけら
ら。乃を乃。可のよま言海乃ありはるけら

ゆらるなり

又曰。をれそのの二むあり。法ハありはり能すの

なり。ゆゑのむつよけ通へるも又かきぬき地
すまのりハ。まふかゝらうとみかゝるもをり
明菴曰。一言なりとを人ハ信を浅くしむ
念生のあるるも悪言ハ念をいらわし。善の
方ハ念をふくむは善あり。人のたふさ
て。善なる事ハ。一語ハ。信通。一言の悪人
よ。まふあゝる。その因果ハ。百生ハ。後うのり
又阿曰。常に空交ハ念仏の工名。念ハ。まふ
ら。の言。善。善。の。ま。中。に。何。を。い。ぬ。
何。を。い。ぬ。と。い。ふ。は。い。ぬ。と。い。ふ。は。い。ぬ。と。い。ふ。ハ

人衆乃ありとはなり
源宣曰。鳩欲酒肉をとりて不浄とを人。結
法中ハ。智恵をとりて。清浄乃みかゝる也
也。と。い。ふ。なり
又曰。性生ハ。一定とを。和。と。ハ。一定なり。子
なり。と。い。ふ。ハ。不。定。なり
修。と。い。ふ。ハ。即。ち。信。道。也。と。い。ふ。ハ。不。定。なり
あり。何。事。ハ。乃。かり。と。源。宣。曰。人。ハ。い。ふ。と。い
けり。念。佛。の。時。候。なり。と。い。ふ。ハ。不。定。なり。と。い
と。い。ふ。ハ。不。定。なり。と。い。ふ。ハ。不。定。なり。と。い。ふ。ハ

やしと云ふ。よ人曰。同のさるるらんや。念仏
 一。天の下の世にさるる
 又曰。嘗て乃をのまじとて。乃の智恵いふ。い
 て。いらさき。極末法。す。うか。し。念。と。此。世。の。る
 を。く。新。も。た。る。い。ま。の。あ。さ。海。一。と。半。を。り
 いう。た。る。の。み。う。あ。そ。ば。あ。の。世。の。ま。乃。こ
 しく。乃。智。恵。を。あ。ま。ひ。け。る。う。年。末。乃。智
 恵。い。い。ん。の。あ。の。ま。を。さ。る。う。の。一。て。乃。余
 を。と。折。換。し。後。乃。世。を。ね。う。あ。う。一。妙。う。る。乃
 う。れ。ん。う。さ。あ。乃。あ。と。あ。の。一。て。な。う。さ。う

信一。と。云。は。ら。を。う。ん。ま。う。う。の。乃。

本朝淨土用基法然上人是也夢中法言乃大

師授極樂往生妙旨

信宣曰。乃余をとりとて。一。念。を。と。む。し。く
 あ。く。み。た。の。お。好。を。お。り。ひ。た。り。て。何。の。難。事
 を。唱。え。ま。し。必。果。遂。成。妙。心。なり。又。那。が。乃
 公。乃。ま。の。一。か。の。一。か。の。ま。一。ま。の。乃。り
 我。の。心。の。信。を。た。れ。う。あ。さ。ま。一。た。れ

中宮大夫行隆朝臣八男也法然上人亦亦也
 兼西曰。佛見法見。乃。お。お。り。の。截。断。志。て

胸中ハ一物ナク廓然虚明にして三世十方を
 遍貫して是ハ空ハ一法ナク一人ハ亦何レハ
 乃ガ一生成乃ガ口をもちて空法説るを説
 と嘆一教を説るは是北海の中ハ落合
 備法世法若樂を説く權殺して一法ナク
 ちつとて是ハ及乃ガなりとわづらひて
 之は是情識乃ハ弁ちりて其工更用を
 一々決意して是ハ言乃ハ上りのあつ
 以吾人利智厚信して工更を廢忘せ
 んハ乃ハ見性悟乃ハ下

源筆又曰法花を大なるの六ノ實乃體同
 果乃宗妙意の用と能解不志て忠辱乃衣
 をと諸法宜此座に坐して大慈愍乃空
 入身のを海に法花の三別とあり
 良惡同念佛三昧に入ぬは
 とうゆる果運し諸法皆神毎に護一
 ぐふがわくさるる念仏を
 くのしけき
 うさるるた
 どんとあ
 や三途の

ものら落乃初とてさへびう一を井の八をきく
 とも。毎のほくもつ世のくもつ。がふらもきひり
 入ぬまへ。出ま白あくしてまげくもくもくいさ文
 ーあり。なまへ。あつこい。人。能と更。方。初
 せとあひ。こ。又。如。算。乃。まの。ま。と。更。げ。友。成。佛
 の。中。懐。と。ど。ど。や。く。十。ー
 覚。宝。恵。曰。云。く。弁。へ。ま。れ。分。ま。ー。と。く。主。物。を
 畧。して。ま。く。ハ。ま。く。ぬ。わ。が。な。り。物。を。う。れ。ま。ふ
 ー。物。く。り。ハ。未。の。世。ハ。物。一。を。あ。つ。あ。ん。人。ま。よ。く
 弁。へ。人。成。救。ふ。ぬ。ら。し。る。ら。ん。文。字。と。畧。し。意。と。ん

ぬ。く。て。ま。り。成。す。の。ほ。く。ま。く。わ。く。あ。こ。ま。ー
 大。慈。大。悲。の。人。成。指。く。後。の。世。と。ま。乃。世。を。ん。の
 たり。う。らん。ま。ま。の。く。う。年。を。一。う。ひ。し。ー
 る。海。ー
 貞。慶。曰。の。世。の。法。と。し。一。の。三。昧。ハ。成。就。の。如。き
 外。成。就。と。し。こ。い。ん。ん。う。あ。く。一。の。三。昧。と。ま
 ら。う。う。の。ま。じ。う。く。結。あ。ひ。よ。入。く。う。む
 せ。う。こ。あ。き。う。解。け。成。成。成。る。う。の。い。か。く。う。ふ
 くと。ば。三。昧。を。あ。つ。あ。ん。う。う。い
 後。前。回。答。う。ま。あ。ん。編。純。す。う。の。ハ。あ。と。め。う

事初をくくし。系り。は。物。承。る。は。の。
妙。る。は。あ。ら。ん。ら。の。思。つ。ま。の。
さ。り。を。あ。り。
延。朗。曰。無。條。乃。一。物。の。肝。創。る。を。一。物。と。し。
不。と。し。り。り。の。時。の。自。在。を。あ。ら。ん。ら。の。思。つ。ま。の。
一。物。と。し。て。慈。世。を。あ。ら。ん。ら。の。思。つ。ま。の。
念。く。又。法。界。なる。也。

八幡太郎義家朝臣孫孫義信朝臣田邊景
松尾上人信若義実希有通者効驗無双人
也

徳惠曰。皆人後生。る。を。あ。ら。ん。ら。の。思。つ。ま。の。
不。と。し。り。り。の。時。の。自。在。を。あ。ら。ん。ら。の。思。つ。ま。の。
一。物。と。し。て。慈。世。を。あ。ら。ん。ら。の。思。つ。ま。の。
念。く。又。法。界。なる。也。

中御門内府家徳二男也住東大寺得業
 慈威曰他修乃時ゆらん事をせりあるべし
 之乃世中なり又他宿ハク修を自宅ハある
 能くせくせりひがとくくひひひくも皆大宅
 なりせりせり一。慈むる乃あるさうくづ
 乃取とせり一大事をわとくくあり
 又惠ん修都つひはかり修ハ。至常乃念と小
 おるものハび人うありと志と成修らうさう
 ありとある也
 乃元曰ととりや云ハ別りハありハ形式戒法之

了後此事なり。と耐乃修みなりハ祖師の語を
 して思量一一分別して戒修を定めてさ
 するやとり。是末世法修みなり。人を修とら
 大罪人なり。仏一代乃流法ハ一切諸經ハ皆是ハ
 戒法也。よも修なり。戒を定めてさるものハ
 戒法也。く物修もく大慈者海ありてさるく
 するくをり。あまの。さうれ末世乃流法修
 とたおらかり。耐ハありと大宅を修とる人
 ありと。さうも。くくみるものさう。修ハ修
 さいの。修をさるハ是をみるものさう。

音振あつちんよんのものあり。家物人の物なり
また法家さりり。あつちんよんものなり。あつちんよんものなり
あつちんよんものなり。あつちんよんものなり。あつちんよんものなり
あつちんよんものなり。あつちんよんものなり。あつちんよんものなり

又美職まつりて新講し可給なり。新講あり
あつちんよんものなり。あつちんよんものなり。あつちんよんものなり
あつちんよんものなり。あつちんよんものなり。あつちんよんものなり
あつちんよんものなり。あつちんよんものなり。あつちんよんものなり

中人教ぬあつちんよんものなり。あつちんよんものなり
あつちんよんものなり。あつちんよんものなり。あつちんよんものなり
あつちんよんものなり。あつちんよんものなり。あつちんよんものなり
あつちんよんものなり。あつちんよんものなり。あつちんよんものなり

らめ。多とて。おさる。ささめ。毒る。り。め。を。
食。め。り。ゆ。を。お。や。り。う。ご。ん。を。い。ま。ね。ら。ん。
ゆ。ご。ん。一。旦。を。中。に。か。り。さ。や。う。い。ふ。と。も。終。り。
よ。か。る。さ。る。と。西。計。ゆ。也。仏。を。も。神。と。い。は。う。と。
ま。ぶ。う。い。又。無。信。放。迷。か。ま。か。あ。ま。人。を。い。て。
く。い。さ。あ。ゆ。い。は。又。家。乃。は。く。ま。ふ。事。を。
ま。り。り。て。君。を。と。可。報。ゆ。う。り。ふ。叶。叶。一。
よ。終。の。ま。ら。い。や。う。そ。あ。ん。と。お。い。い。二。よ。い。家。乃。
り。何。と。て。仏。乃。は。ゆ。ゆ。す。く。い。う。さ。に。無。き。と。
と。ま。ら。く。と。あ。く。く。あ。い。う。り。ま。た。ま。う。か。し。と。を。

か。り。ゆ。い。
又。曰。と。世。諸。山。法。寺。伽。藍。堂。塔。乃。無。思。ハ。佛。
法。破。滅。の。時。なり。仏。法。無。思。乃。対。ハ。樹。下。石。上。り。
塵。ま。く。佛。法。執。行。の。人。多。あ。り。ま。り。と。い。ふ。

明惠房紀伊國高田郡平重國子也
敬佛房曰。遁世者。い。あ。ま。い。ま。と。う。け。ぬ。や。う。と。お。
り。い。は。多。て。張。舞。り。う。ま。守。一。乃。要。な。り。と。い。い。
お。を。治。乃。明。禮。法。中。曰。志。や。世。海。一。世。ま。や。あ。り。

まへに。おほゆる事ハ大なるをぬらむれり
しつひ。世の事を空にぬく感一作ける
也なり

又曰。人をもて功徳をいへり。悪をさぬくは
なりしきなり

法皇曰。力を地りあへて。推し人終り。接な
り。世の境をいへり。世中。朽果。三。男。子。あ
り。あ。る。ま。き。い。く。終。り。あ。か。ん。た。う。つ。こ。ま。り
後。世。の。身。田。反。世。世。の。も。つ。ん。もの。の。ま。ん。ぬ。り。あ。一。も。持
ま。の。こ。さ。なり。あ。く。入。り。世。の。ま。の。つ。り。の。時。なり

て。也。奇。異。を。あ。ひ。す。世。の。物。は。つ。つ。の。ま。く。そ。乃
人。の。い。へ。ん。や。後。世。を。あ。より。ま。く。世。を。あ。く
あ。ん。人。乃。あ。り。し。終。外。の。何。め。て。も。持。の。り
る。も。あ。り

又曰。物にすく。なるをて。接る。も。か。い。の。ま。も。一
粉。乃。あ。り。あ。り。なり。大。地。と。さ。り。ま。り。ん。と。持。ま
ぬ。ん。た。り。す。小。石。小。舟。も。も。失。つ。る。は。い。へ。り。ま。り
を。ま。り。の。り。大。地。の。あ。り。ぬ。物。の。り。り

叙氏部上終

佛論語卷第八終



佛論語卷第八

廿七

